

根津美術館の武器・武具

英 姿 えいし さつそう 颯 爽

企画展
Museum Collection Exhibition

Cutting a Valiant Figure:
Weapons and Armor in the Nezu Museum Collection

鮫研出刻鞘大小拵（刀装具）後藤一乗・池田隆雄作
日本・江戸・明治時代 19・20世紀 根津美術館蔵

根津美術館のコレクションの中で、武器・武具はちょっと特殊な存在です。実は当館コレクションの礎を築いた初代根津嘉一郎は「刀はわからない」と公言しており、積極的な蒐集はしていないからです。ではなぜ現在 1,100 件を超える作品を収蔵しているのでしょうか。その理由は明治 42 年（1909）、実業家・^{みつむらとしも}光村利藻による 3,000 点におよぶ武器・武具コレクションを一括購入したことにあります。嘉一郎は同じコレクターとして光村を評価しており、優れた作品群の海外流出を危惧しての行動でした。この英断は作品の大規模な散逸を防ぎ、光村の体系的な蒐集の特性を守ることにつながりました。当初から半減したものの、当館の武器・武具は現在も、ほぼ光村コレクションで形成され、未だ往時の内容をよく伝えています。

近年、作品の調査が進み、その特色がさらに明らかになってきました。例えば、収蔵数で最もボリュームのある刀装具は、武士から富裕層まで注文主の広がりが見られること、自由で洒脱なモチーフの作例（町彫り）を豊富に含んでいることなどがあげられます。それを身につけた姿は、さぞかし^{えいし さつそう}英姿颯爽（スタイリッシュで格好いい）としたものだったでしょう。

他にも古刀の名品や、はたまた嘉一郎が選んで購入したわずかな作品の中から重要文化財になった甲まで、幅広く、質の高い根津美術館の武器・武具コレクションは、知る人ぞ知る充実した内容を誇ります。本展覧会では、その中から選りすぐりをお楽しみいただきます。

2026年 2月14日(土)～3月29日(日)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM



がっさんさだかず
月山貞一に発注した刀身のために光村が調えた拵。厚く蒐集した後藤一乗の作品から
拵金具を選び、不足を池田隆雄に補作させて誂えたのであろう。廃刀令により消滅の
危機に瀕した刀剣文化を護った、光村コレクションを象徴する作品のひとつ。

さめとぎ だしきざみさやだいしょうこしらえ
鯨 研出刻鞘大小拵
(刀装具) 後藤一乗・池田隆雄作
1 拵 木胎漆塗／赤銅地ほか
日本・江戸～明治時代 19～20 世紀



「桃太郎」「猿蟹合戦」「舌切り雀」といったおとぎ話を題材とした
カワイイ刀装具。作者の小川知恒は大坂の装剣金工で、現存する
作品は非常に少ない。コレクションにはこのような希少作例が多
く含まれており、資料的価値も高い。

おとぎばなしずそろいかなぐ
御伽噺図拵金具
小川知恒作
1 拵 素銅地ほか
日本・江戸時代 19 世紀



下げ緒を通す「栗形」には栗が。



らいくにとし
来国俊は鎌倉時代後期の山城国来派を代表する刀工。細身の優美な姿にゆるやかに反りがつき、
華美に流れすぎない作風は品格を感じさせる。

重要美術品
太刀 銘 来国俊
1 口 鍛鉄製
日本・鎌倉時代 13 世紀

かのうなつお
加納夏雄は帝室技芸員にも任じられた幕末明治の金工の雄。
本作は、牡丹の柔らかく幾重にも重なる花卉を立体的に、
その質感まで表現した優品である。

ぼたんちょうずつば
牡丹蝶図鐔 加納夏雄作
1 枚 鉄地
日本・江戸～明治時代 19 世紀



【コレクター 光村利藻】

光村利藻（号 龍獅堂・1877～1955）は、美術印刷業で名をはせた大阪生まれの実業家。明治 30 年（1897）、20 歳の頃からわずか
10 年ほどで、刀剣と刀装具を主とした 3,000 点にのぼるコレクションを形成した。それらは、生まれ育った関西圏を中心に、全国の
刀匠、装剣金工の作品を体系的に蒐集したもので、優れた資料性も有する。また、光村は蒐集のみでなく、刀剣文化のパトロンとして
も活躍。多くの名工を育てた。



嘉一郎が光村コレクション以外に蒐集した数少ない武具のひとつ。室町時代の典型的な仕立てで、製作当初の札板や威がほとんど残った貴重な作例。

重要文化財
くろかわかたどりおどしのはらまき
黒草肩取威腹巻
1 領
日本・室町時代 16 世紀

4つの籠に春夏秋冬の花が各々投げ入れられた意匠を、蒔絵や金貝であらわした近世鞍。ふんだんに金が用いられた豪華な仕様で、有力な武家に伝来したものと思われる。



はなごまきえくら
花籠蒔絵鞍
1 背 木胎漆塗
日本・江戸時代 17 世紀

そのほかの
展示作品

重要美術品の古刀、埋忠^{うめただ}をはじめとした充実した新刀など、刀剣は約 20 口。刀装具はコレクションの大きな柱である一乗派と大月派を中心に、美麗な拵も含め約 70 件を。また武士の装いである甲冑のほか、まばゆい蒔絵の鞍といった馬具もそろえ、厳選した総数約 100 件で展観します。

講演会
(事前申込制)

「光村コレクションの刀剣」
講師：久保恭子氏（元日本美術刀剣保存協会博物館事業課長・専門学芸員）
日時：2026 年 3 月 14 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分
会場：根津美術館 講堂

スライドレクチャー
(事前申込制)

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。
日時：2026 年 2 月 27 日（金）、3 月 20 日（金・祝） いずれも 11 時 30 分～12 時 15 分
＊2 回とも同内容です。
会場：根津美術館 講堂

特別催事
(事前申込制・有料)

素浄瑠璃の会 「壺坂観音霊験記」より
文楽座のパトロンでもあった光村利藻にちなみ、明治時代の人気演目を演者のお話とともに
お楽しみいただく会です。詳細は後日当館ホームページでお知らせいたします。
日時：2026 年 3 月 8 日（日） 午後 1 時～2 時
出演：豊竹呂勢太夫（太夫）、鶴澤燕三（三味線）ほか

関連催事

展示室5 百椿図^{ひゃくちんず} ―暮らしを彩る椿模様―

近世初期の園芸椿ブームを背景に制作された絵巻「百椿図」。このたびは、椿を意匠とする漆器や陶磁器とともにご覧いただきます。



百椿図（部分）
伝狩野山楽筆
2 巻 紙本着色
日本・江戸時代 17 世紀
茂木克己氏寄贈

【特別催事：茶室で楽しむ椿の花芸】

さまざまな器物に椿をあしらった「百椿図」の展示にちなみ
当館茶室にて、その絵の情景を現代風にアレンジしていただきます。

期 間：3 月 19 日（木）～21 日（土）
午前 10 時から午後 4 時まで
※ただし、21 日（土）は午後 3 時まで
場 所：庭園内茶室弘仁亭・無事庵
展示制作：花芸安達流・二代主宰安達瞳子氏



同時開催展

展示室 6 草萌ゆる ―春の茶会―

麗らかな日差しに包まれ、草木が一斉に芽吹く春。この季節の訪れを喜び、茶の湯では、明るい趣向の道具を取り合わせて客を迎えます。

唐草文が染付でおおらかに描かれた絵瀬戸の茶碗。
絵付けや形から、安南（現在のベトナム）で作られたいわゆる「安南染付」を、瀬戸で写したものと考えられる。



えせとちやわん
絵瀬戸茶碗
せと
瀬戸

1 口
日本・江戸時代 17 世紀

展覧会名 企画展 英姿颯爽 ―根津美術館の武器・武具―

日時指定予約制

スムーズな入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。（招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。）

主催 根津美術館

開催期間 2026 年 2 月 14 日 [土]～3 月 29 日 [日]

開館時間 午前 10 時～午後 5 時（最終入館 午後 4 時 30 分）

休館日 毎週月曜日。ただし 2 月 23 日（月・祝）は開館、翌火曜休館

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300 円（1100 円） 学生 1000 円（800 円）

- ・（ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者 1 名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券（一般 1400 円、学生 1100 円）も販売しております。
（ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。）
- ・2026 年 2 月 3 日 [火] 午後 1 時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は 1 グループ 10 名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口（階段）より徒歩 8 分、
B4 出口（階段とエスカレータ）より徒歩 10 分、B3 出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩 10 分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536（代表）
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の 学芸部 広報課 所／村岡
お問合せ Tel. 03-3400-2538（直通） e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。（press@nezu-muse.or.jp）

開館 85 周年記念特別展 光琳派 ―国宝「燕子花図」と尾形光琳のフォロワーたち―

2026 年 4 月 11 日 [土] ～ 5 月 10 日 [日] （5 月 5 日 [火・祝]～10 日 [日] は夜 7 時まで開館）

尾形光琳の弟子である渡辺始興や深江芦舟、
弟・乾山、乾山に学んだと伝える立林何昂。
知られざる「光琳派」の作品を展覧し、琳
派の歴史に新たな光を当てます。



左：国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆
根津美術館蔵

右：燕子花図屏風 渡辺始興筆
米・クリーブランド美術館蔵
いずれも日本・江戸時代 18 世紀